

平成28年度事業計画

政府発表の平成28年度の経済見通しによると、我が国経済は、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が更に進展するとともに、交易条件が緩やかに改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれるとされました。物価については、デフレ脱却に向け更なる前進が見込まれるとした結果、平成28年度の実質GDP成長率は1.7%程度、名目GDP成長率は3.1%程度と見込まれると報告されています。

日野市シルバー人材センターは、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とし、地域に密着した幅広い活動を継続・拡充することで、事業を推進してまいりました。その間、補助金減額や景気低迷による契約実績減によりセンター経営が厳しい時期にあっても安定的な経営を目指し、国、東京都、日野市の支援を受けながら、積極的に受注確保・拡大に努めた事業運営の結果、平成26年度より実績も回復してまいりました。

当年度においては、3つの重点項目を挙げて活動を進めてまいります。まず、「会員拡大」では、広報活動等の充実を図り、会員増強を進めます。次に「就業機会の確保・拡大」では、今後の更なる高齢社会を見据えた新規事業や会員の結集力を高める事業に取り組むとともに、就業開拓に努めます。具体的には、新たな事業として「介護予防・日常生活支援総合事業」に取り組み、地域社会のニーズに応じてまいります。加えて会員の幅広い就業ニーズ、能力活用に応えるため、「一般労働者派遣事業」を平成29年度から開始する準備を行います。最後は、「人の輪の拡大」として、会員間のコミュニケーション、さまざまなツールを利用した仲間づくりなどにより充実を図ってまいります。

日野市シルバー人材センターは、今後も日野市などの公共団体や市民、市内事業所の信頼を得ながら公益法人としての社会的使命を果たすべく、基本理念である「自主・自立」「共働・共助」の考えに基づき、会員一丸となって事業を推進するため、次の基本方針に基づいて事業計画を策定しました。

I 基本方針

- 1 基本理念の一層の理解と浸透に努め、組織の発展と強化を図る。
- 2 対外広報を積極的に展開し、センター事業の認知度向上を図る。
- 3 高齢者に適した就業機会を拡大するとともに、会員の増強を図る。

- 4 地域活動、会員相互の交流を促進し、センター活動の充実を図る。
- 5 就業および組織活動における安全管理を強化する。

II 事業実施計画

1 就業機会の拡大と会員の増強

(1) 体制強化による就業の拡大

センター事業の活動基盤は地域社会にあるため、日野市との綿密な連携により更なる理解と支援を得ながら、公共事業の就業拡大に取り組み、市内事業所、一般家庭における就業開拓の体制を強化して、民間企業等の就業を拡大します。

(2) 派遣事業開始への準備

ホワイトカラー層を多く含む団塊の世代が継続雇用期間を経て、今後の多様な働き方の選択肢として、シルバー人材センターが注目されています。センター事業の将来像や国の労働政策などを総合的に判断し、東京しごと財団と一体となって、平成 29 年度内の派遣事業開始を目指しますが、平成 28 年度内の試行開始も含んで準備します。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施

日野市の要望に基づいて、新たに介護予防・日常生活支援総合事業を実施します。この事業は、要支援状態の方や生活機能の減退した方の受け皿としてサービスを提供するものであり、実施にあたっては、日野市などの関係機関との綿密な連携が重要となります。

また、要員の確保も必要になることから、継続的な知識の習得・能力向上の研修等により、育成を図ります。

(4) 女性会員向け新規事業の開拓

女性会員の組織率がまだまだ低いため、女性会員が魅力を感じ、就業しやすい新規事業を開拓していくことで、女性会員の入会を促進するとともに、就業の機会を拡大・強化します。

ア 介護および保育事業の開拓

前記(3)に記述したように、日常生活支援総合事業や関連する事業を開拓します。さらに、保育事業の事業化を検討します。

イ 食品・飲食事業の開拓

食品および飲食事業の実施例を調べ、事業化の検討を行います。

ウ 事務系仕事の開拓

女性が最も希望する仕事が事務系仕事ですので、その創出に努力しま

す。

エ 『(仮称)今さら聞けない相談室』の開設

パソコン、タブレット、スマホの操作等で困ったことなど、会員が相談に乗る仕組みを作ります。

(5) 職群事業（一般家庭対象事業、独自事業）の拡充

地域に密着した幅広い活動を継続・拡充することが、事業を推進する上で重要です。今まで以上に市民から注目され活用されるセンターを目指すことで、

ア 職群班の育成強化

業務拡大の主力となる職群班の育成強化に努め、就業機会の拡大の体制を整備します。

イ 家事手伝い、高齢者支援サービス関係業務の拡充

本年度から介護予防・日常生活支援総合事業を実施しますので、この分野の関係機関と連携を密にして、センターとして受注可能な仕事を選択しながら事業の拡大に努めます。そのためには、家事援助分野の就業会員の確保増員が急務ですので、講習会等を計画的に開催し、要員増加に努めます。また、リビングサポート事業推進体制の強化を進めます。

ウ 独自事業の開拓・拡充

ここ数年、会員の多彩な能力を活用する事業の一つとして好評の「いきいきカルチャー教室」は、より幅広い内容の開催に努めます。

また、介護予防・日常生活支援総合事業の周辺事業として、買物代行、通院付添、ヘアカットサービスなど様々な事業を開拓します。

(6) 会員の入会促進

会員はセンターの最も基本的な構成メンバーであり、センター事業を推進するための原動力です。団塊世代が本格的なリタイア時期を迎えている今日を会員拡大の好機と捉え、魅力ある就業先を積極的に開拓するとともに、ホームページや市の広報の活用、事業紹介パンフレット等を活用して広くPRして入会促進を図ります。

また、現会員による「お誘い運動」を行い、「地域の宣伝役」としての活躍に期待します。

(7) 会員の減少防止対策

就業機会の拡大による会員の拡大を図るなかで、後期高齢の会員が活躍できる就業環境および活動環境の整備が重要です。「会員アンケート」を実施して意向等を確認し、サークルや各種イベントなど、「仲間づくり」ツ-

ルの充実を図ります。

2 安全第一で適正就業

(8) 安全かつ適正な就業の推進

安全対策基本計画および実施計画に基づいて“事故ゼロ”を目指し、安全第一に就業できるよう取り組みます。特に、7月を安全就業強化月間と定めて対策を講じます。

また、センターにおける就業の在り方は、臨時的、短期的な業務の請負または委任による就業が基本であるという原点を確認し、適正就業のコンプライアンスに努めます。

(9) 安全意識浸透への取組

会員は「安全はすべてに優先する」を基本として、就業途上、就業中の安全に努めることとされています。

センターにおける事故件数は会員の努力により、傷害・賠償責任事故ともに減少傾向にあります。事故の多くは確認作業を怠った不注意によるものです。そのため、安全管理委員会による就業期限確認書交付時の安全講話、高齢者向けの自転車安全講習等を開催し、より一層の安全就業に努めます。

(10) 会員研修の強化と専門化の推進

下記の推進により、専門化を図ります。

- ア 介護予防事業など、専門分野への進出
- イ 職群事業の拡大
- ウ 人材派遣事業の開始

3 組織・機能の充実強化

(11) 今後の発展に向けた広報活動

総務委員会に包括していた広報活動については、新たに広報委員会を設置して内部広報とともに対外的広報の充実を図ります。センターの存在を積極的にPRするため、横断幕の活用やホームページの全面改訂、現行のリサイクルフェアを拡大発展させたフェアを開催します。

また、普及啓発月間を設定し、広く地域社会の理解と支持を得るよう努めるとともに、市内の各種団体の会合には努めて出席の機会を確保して、関係者に対しセンターの存在と活動について理解と協力を得るよう努めます。

(12) 地域社会への貢献

事業活動の基盤である地域社会への貢献は、公益法人の大事な役割の一つです。従来から実施している市内美化活動（一斉清掃）、社会奉仕活動を積極的に実施します。また、自治会等との活動に対する連携や市民向け各種研修会を通じて交流に努めます。

(13) 会員、理事、事務局との連携強化

センター事業の遂行にあたっては、「共働・共助」の基本理念を具現し、会員として連帯意識を強固にすることによって、会員と理事、事務局が情報を共有し、一体となって運営することが大変重要です。センター運営の両輪である「組織活動」、「就業活動」において、いっそう緊密な連携強化を図ります。

【各委員会の取り組み】

○総務委員会

- ・ 会員相互の交流促進
- ・ 会員増強の一環として、お誘い運動を展開
- ・ 新入会員研修、入会案内、就業調整などの日常業務の遂行
- ・ 会員アンケート調査の集計および分析
- ・ 各委員会との連携強化を図り、各種プロジェクトを遂行
- ・ 規程、要綱等の整備

○事業委員会

- ・ 会員の技能・資格等を活用した事業の提案、立上げ
- ・ 新規事業の立上げ
会員、地域との交流やPRのための「シルバーサロン事業」
会員の講師による「スマホ事業」
生活支援のための「買い物代行サービス事業」
子育て、孫育ての経験を生かした「子育てサロン事業」
- ・ 多機能店舗の事業化調査

○業務委員会

- ・ 月次実績の分析、就業応募状況の観察
- ・ 職群班事業の規模拡大と機能改善
- ・ 清掃事業の再編
- ・ 就業会員交流会の開催
- ・ 新入会員のためのガイドブック作製

就業案内（公共事業、民間企業、職群班）

○女性委員会

- ・女性限定入会案内説明会を年3回に増やし、座談会形式の会話の場も設けてセンターを身近に感じてもらえるようにする。
- ・女性委員会便りの発行回数を増やす。
読んで参考になったとの声に応じて一層の充実を図る
- ・市民対象、会員対象の講習会・交流会・研修会等の開催でセンターをアピール。市民に向けては入会PR、会員に向けては退会者を減らす活動とする。

○地域委員会

- ・地域班会議の内容充実など出席者を増やす施策の実施
- ・清掃ボランティア活動の拡大
- ・小・中学校「朝のあいさつ運動」の拡大
- ・高齢者見守り支援「気かけ運動」の拡大
- ・地域班長の負担にならないボランティア活動の模索

○安全管理委員会

- ・職場グループ及び職群班の安全会議の開催
- ・安全就業基準自己チェックの実施
- ・会員の健康状態把握及び健康に関する情報の提供
- ・安全講習会、作業機械等取扱講習会の実施
- ・ヒヤリハット活動の定着、推進

○広報委員会

- ・「月刊さわやか」と「シルバーひの」の発行
- ・上記両紙（誌）の編集方針の再検討、紙（誌）面の改善
- ・基礎的情報の収集と分析
認知度（日野市民、市内企業）、既存のメディア・イベント
- ・ホームページ（HP）のリニューアル
- ・広報方針の策定